


平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「伝承芸能の機能を活かした集落の賑わい創生」モデル事業
対象地域	新潟県 佐渡市
活動概要	<p>テーマ 「集落が大切に伝承した芸能や祭り等(集落の宝)の利活用による集落機能の維持」</p> <p>【現状と課題】 人口の減少：昭和60年81,939人→平成17年67,386人 高齢化率：34.8% 人口比較65歳以上1.4倍14歳以下0.5倍</p> <p>① 過疎・高齢化・若者の流出が、集落機能の低下、地域のコミュニティの弱体化、生活者の気力を衰退させている。</p> <p>② 人的な流出は、山野の荒廃につながり、自然環境の変化はさらに地域に住む人たちの生活習慣をも変容させ、集落のコミュニティの衰退に拍車をかけている。</p> <p>③ それぞれの集落の特性、集落の主体性を踏まえた支援が求められている。</p> <p>④ 集落のコミュニティが弱体化する中で、集落の特徴ある生活文化が伝承されず、体系をも見失い、形式的なもののみを継承し本来の意味を失っている。</p> <p>⑤ 食文化の伝承が途切れ、集落の味・家庭の味が失われている。(食文化の衰退)</p> <p>【実現したいこと】</p> <p>① <u>集落の宝の再認識「なぜ祭り・伝承芸能なのか」</u> 佐渡における祭りはイベントではなく、集落の力の集大成である。祭りを迎える為には寄合や清掃、伝承芸能の稽古など集落をあげて準備が行われる。また、当日各芸能は家々を一軒一軒まわり繁栄を祈願し、迎える家では集落やその家庭に伝わる料理をふるまいもてなす。お互いの結びつきは祭りを超えて拡がり集落の力となる。そのことを内外で再認識する。また、そのような集落の祭りは佐渡では約150集落で行われ関わる人数が他と比べると圧倒的に多い。その関わる人たちの数の多さを力に変えていく。</p> <p>② <u>交流を活かした集落の賑わい創生「集落の宝を発信する為の交流」</u> 上記の【現状と課題】にあるようにコミュニティの弱体化は否めない。学校統廃合、医療過疎を始め集落の現状は厳しい。しかしそこになぜ踏みとどまる人がいるのか。集落の伝えてきた文化、生活、景観。それらを宝と思う人が居るからである。集落の祭りに関わってもらうことで、その集落の良さを知ってもらい、継続した交流を図る。</p> <p>③ <u>集落を担う人材の育成と地域間ネットワークの構築「集落の力の拡がり」</u> 他地域から人を受け入れることにより広い視野をもつ集落を担う人材を育成し、そのネットワークを広げて佐渡全体の地域創生を図っていく。</p>

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「伝承芸能の機能を活かした集落の賑わい創生」モデル事業
対象地域	新潟県 佐渡市
今年度の主な取組	<p>【1 地域の記録】</p> <p>① 祭の実情の把握(地域の青年団・集落委員会からの聞き取り等)</p> <p>【2 集落外からの伝承芸能・祭りの支援】</p> <p>① 島外から対象地域に入りコミュニティづくりに参加するためのコーディネート          ○受入対象大学生          ○受入期間祭り前後の1週間～1ヶ月程度          ○大学訪問趣旨説明、具体的な需要の調査、実行の可能性の検討          宿泊方法や日程、予算          &lt;訪問予定新潟大学、法政大学、早稲田大学、上越教育大学&gt;</p> <p>② 主体となる舞や太鼓の叩き手には、一朝一夕にはなれないが、太鼓の担ぎ手や獅子舞の中継ぎ、裏方の準備を支援する体制づくり(新しく大学生等(若者・観光客)と地域とのパイプ役となり実際の支援)</p> <p>③ 支援の中にも観光的な要素(実況ガイドや体験)を盛り込み、楽しんでもらえる仕組みづくり(リピーターになってもらう)</p>
活動結果	<p>伝承芸能の門付けを行うには最低でも15～20人は必要で、従来は、親戚や近隣の人たちの手伝いを借りていたが、そこに新潟大学の学生が加わり、集落の住民とともに終日笛を吹いて家々を廻ったことなどにより、仲間意識が醸成され、祭りが盛り上がった。また、学生を集落内に迎えることによって、集落の住民が祭りに対して前向きになり、結果的に集落の勢いに結びついていくように感じられた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>①集落の人たちのコミュニティや祭りに対する思いが予想以上に強かった。</p> <p>②学生と交流したいとの希望をもっている集落が主体的に、学生受け入れのためのメニューを工夫し提案してくれた。</p> <p>③現役の小中高校の教職者から、地域と学校教育の連携の方法に悩んでいるとの話があり、自身の学生時代に集落と交流した経験があれば、教育現場での取り組みも異なるものになると言われた。</p>
実施状況(写真)	 <p>【写真】黒根集落の門付けで笛を吹く新潟大学の学生</p>
応募団体名	佐渡芸能伝承機構
リンク	
部局／担当者名	理事 松田祐樹
連絡先	0259-27-5331
推薦市町村名	新潟県佐渡市